

WHA Corporation Public Company Limited
Real Estate

Industry Mover
S&P Global ESG Score 2022

75 /100

As of February 7, 2023.
Position and Score are industry specific and reflect existing screening criteria. Learn more at [spglobal.com/esg](https://www.spglobal.com/esg)

S&P Global Sustainable1

WHAコーポレーションは、サステイナブルな開発における優れた実績が評価され、「S&Pグローバルサステイナビリティイヤーブック」で不動産業界のインダストリームーバーとして認定されました。この名誉ある賞はWHAグループのサステイナブルなビジネス運営実現のコミットメントが評価されたもので、同社は「Mission to the Sun」を掲げグリーン物流、サイエンス、ヘルスケア、ヘルスケア、ヘルスケアなどのコアプロジェクトを通じて環境、社会、経済のポジティブな変化を推進します。これらのコアプロジェクトはすべて、サステイナブルな成長のための究極のソリューションに欠かせないもので、WHAコーポレーション社代表

WHAコーポレーション社（WHAグループ）は、サステイナブルな開発における優れた実績が評価され、「S&Pグローバルサステイナビリティイヤーブック」で不動産業界のインダストリームーバーとして認定されました。この名誉ある賞はWHAグループのサステイナブルなビジネス運営実現のコミットメントが評価されたもので、同社は「Mission to the Sun」を掲げグリーン物流、サイエンス、ヘルスケア、ヘルスケア、ヘルスケアなどのコアプロジェクトを通じて環境、社会、経済のポジティブな変化を推進します。これらのコアプロジェクトはすべて、サステイナブルな成長のための究極のソリューションに欠かせないもので、WHAコーポレーション社代表

S&Pグローバルサステナビリティイヤーブック2023 WHAグループを不動産業界のインダストリームーバーに認定

取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏は、WHAグループは、S&Pグローバルサステイナビリティイヤーブックにタイ不動産業界3社のうちの1社として認定されて掲載されたことを大変光栄に感じています。WHAグループはさらに世界の評価対象企業の中から不動産業界のインダストリームーバーとして表彰されました。このことはWHAグループが自社のサステイナブルな成長だけでなく環境や社会をひいては国家経済にも良い影響をもたらすと確信しています。喜びを述べました。

期待が持たれています。サキユラー・エコーミーではWHAグループのエンジニアリングの最大利用を実現し、デジタルヘルスの従業員及び工業団地の工場労働者の健康と福祉を促進するデジタルヘルスケアソリューションを通じてデジタルヘルスケアの向上を促進し、医療や公衆衛生ソリューションを効率化させます。このデジタルヘルスケアは医療や公衆衛生ソリューションの向上に貢献しています。

WHAグループ ラマティボディ財団の医療サービス・教育プロジェクトを支援

WHAコーポレーションはWHAグループはこのほど200万バーツをラマティボディ財団に寄付しました。この寄付はマヒドン大学ラマティボディ病院と国家放送通信委員会（NBTC）が共同で「教育プロジェクト」を支援するものです。この高速インターネット接続プロジェクトを駆使し、医療教育および患者ケアを強化します。



ラマティボディ病院医学部シリキット王妃医療センターで開かれた記者会見で、WHAコーポレーション社長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏（中央）は、ラマティボディ病院医学部長Piyamit Sritra教授（写真中央）、国家放送通信委員会（NBTC）会長のSarana Boonbichaiyapruk臨床教授（左から3人目）、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部情報技術担当副部長のSani Molagool博士（左から2人目）、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部第一副部長のYuwares Sittichanbunha教授（右）、記者会見にはWHAグループ取締役役員Krailuck Asawachatroj氏（右から2人目）、コーポレート・マーケティング・ディレクターApinya Khuharuangrong氏（右端）も出席しました。

WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏はこのたびデジタル経済振興庁（DEPA）主催「Digital Impact Awards 2022」のデジタルアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。この賞は先見性のある取り組みによりデジタルの優れた発展と応用をデジタル組織の生産性向上にサステイナブルな成長を可能にした起業家または経営者に贈られるものです。DEPAは、各分野の専門家と協力し、5つのカテゴリでデジタル経済社会の推進に貢献した優れた候補者を選出します。この賞は特に若い世代の創造性と意識を高め、革新的なデジタル製品やサービスの開発にインスピレーションを与えることができるモデルを表彰することを目的としています。この取り組みは、タイの競争力を強化し、サステイナブルなデジタル経済社会の実現を通じてタイを発展させるものです。

日系自動車部品メーカー「カネミツ」 WHA工業団地の土地購入契約を締結

日本の高品質自動車部品メーカーであるカネミツグループは、このほど、タイでの生産事業拡大に向け、土地購入契約を締結しました。カネミツは、国内外の自動車市場の成長に対応するため、プーリーなどの高精度自動車部品を生産する新工場の建設用地として、WHAイースタン・シーボード工業団地（ラローン）に18万の土地を取得しました。

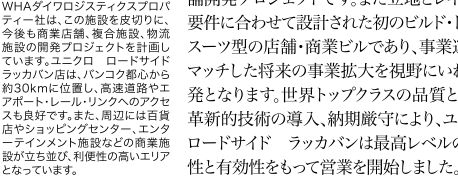


WHAタワーで開かれた土地売買契約締結式典に出席したWHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏（中央左）、カネミツグループ社代表取締役社長の山川清日氏（中央右）および同社幹部。

WHAタワーで開かれた土地売買契約締結式典に出席したWHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏（中央左）、カネミツグループ社代表取締役社長の山川清日氏（中央右）および同社幹部。

WHAダイワロジスティクスプロパティ ユニクロ ロードサイドラッカバン店を開発

2016年7月に設立されたWHAコーポレーション社（WHAグループ）と大和ハウス工業の合弁会社であるWHAダイワロジスティクスプロパティ社は、バンコクに敷地面積1,019㎡の商業店舗「ユニクロ ロードサイド ラッカバン」を開発しました。2023年3月31日にオープンした店舗は、WHAダイワロジスティクスプロパティ社にとってタイ国内初と見られる商業店舗開発プロジェクトです。また立地とレイアウト要件に合わせて設計された初のビルド・トゥー・スーツ型の店舗・商業ビルであり、事業運営にマッチした将来の事業拡大を視野にいれた開発となります。世界トップクラスの品質と基準、革新的技術の導入、納期厳守により、ユニクロロードサイド ラッカバンは最高レベルの効率性と有効性をもって営業を開始しました。



WHAダイワロジスティクスプロパティ社は、この施設を皮切りに、今後も商業店舗、複合施設、物流施設の開発プロジェクトを計画しています。ユニクロ ロードサイドラッカバン店は、バンコク都心から約30kmに位置し、高速道路やエアポート・レール・リンクへのアクセスも良好です。また、周辺には百貨店やショッピングセンター、エンターテインメント施設などの商業施設が立ち並び、利便性の高いエリアとなっています。

WHAグループCEO 「デジタル・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」に選ばれる

WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏はこのたびデジタル経済振興庁（DEPA）主催「Digital Impact Awards 2022」のデジタルアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。この賞は先見性のある取り組みによりデジタルの優れた発展と応用をデジタル組織の生産性向上にサステイナブルな成長を可能にした起業家または経営者に贈られるものです。DEPAは、各分野の専門家と協力し、5つのカテゴリでデジタル経済社会の推進に貢献した優れた候補者を選出します。この賞は特に若い世代の創造性と意識を高め、革新的なデジタル製品やサービスの開発にインスピレーションを与えることができるモデルを表彰することを目的としています。この取り組みは、タイの競争力を強化し、サステイナブルなデジタル経済社会の実現を通じてタイを発展させるものです。

WHAグループ、サイアムレジヤタニー社株式の20%を取得 物流とスマート工業団地の成長を支える 統合ビジネス推進

WHAグループ取締役会は、サイアムレジヤタニー社（SO）への9億1200万バーツの投資を承認しました。この投資はSO社の持株比率20%に当たり、物流とスマート工業団地の成長に対応し顧客サービスを強化するWHAの総合事業推進を目的としています。WHAコーポレーション社は2023年4月27日付の取締役会決議を受け子会社WHAベンチャーホールディングス社（WHA V H）がSO社の普通株式111,597,905株を1株あたり817200バーツで取得することをタイ証券取引所（SET）に報告しました。WHA V HはSO社の株式20%を保有することで58.2%を保有するVimolichaiと共同でWHAグループの株主となります。WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏は「SOへの投資はWHAグループの強みである包括的なエコシステムと、SO社の強みであるリージョナルソリューションを融合し、WHAグループの企業理念「Mission to the Sun」を大きく前進させることにつながります。イノベーション技術により顧客のサステイナブルなソリューションとなる新製品やサービスを開発することを目指します」とコメント。さらに、「製造およびサービス業における人材派遣業界最大手のSO社は労働市場のニーズに対応した人材採用と人材スキルトレーニング能力開発を含む人材マネジメントに精通しています。SO社は顧客のビジネスプロセスの改善、効率化、ひいては運営コスト削減を支援する様々なソリューションの開発に最先端テクノロジーを導入することで、リージョナルを実現しています。その一方で、ドライバーや車両管理システム（輸送管理）はWHAグループのグリーンロジスティクス事業の拡大計画の一部でもあります。SO社の投資は、戦略的かつサステイナブルな協力関係を構築するだけでなく、両社の事業拡大に多くの機会をもたらす、投資に対する十分な見返りも期待できます」と述べています。

WHAグループ、サイアムレジヤタニー社株式の20%を取得

WHAコーポレーション社は2023年4月27日付の取締役会決議を受け子会社WHAベンチャーホールディングス社（WHA V H）がSO社の普通株式111,597,905株を1株あたり817200バーツで取得することをタイ証券取引所（SET）に報告しました。WHA V HはSO社の株式20%を保有することで58.2%を保有するVimolichaiと共同でWHAグループの株主となります。WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏は「SOへの投資はWHAグループの強みである包括的なエコシステムと、SO社の強みであるリージョナルソリューションを融合し、WHAグループの企業理念「Mission to the Sun」を大きく前進させることにつながります。イノベーション技術により顧客のサステイナブルなソリューションとなる新製品やサービスを開発することを目指します」とコメント。さらに、「製造およびサービス業における人材派遣業界最大手のSO社は労働市場のニーズに対応した人材採用と人材スキルトレーニング能力開発を含む人材マネジメントに精通しています。SO社は顧客のビジネスプロセスの改善、効率化、ひいては運営コスト削減を支援する様々なソリューションの開発に最先端テクノロジーを導入することで、リージョナルを実現しています。その一方で、ドライバーや車両管理システム（輸送管理）はWHAグループのグリーンロジスティクス事業の拡大計画の一部でもあります。SO社の投資は、戦略的かつサステイナブルな協力関係を構築するだけでなく、両社の事業拡大に多くの機会をもたらす、投資に対する十分な見返りも期待できます」と述べています。

WHAグループ、サイアムレジヤタニー社株式の20%を取得

WHAコーポレーション社は2023年4月27日付の取締役会決議を受け子会社WHAベンチャーホールディングス社（WHA V H）がSO社の普通株式111,597,905株を1株あたり817200バーツで取得することをタイ証券取引所（SET）に報告しました。WHA V HはSO社の株式20%を保有することで58.2%を保有するVimolichaiと共同でWHAグループの株主となります。WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリ・ポーン・ジャルコンサク氏は「SOへの投資はWHAグループの強みである包括的なエコシステムと、SO社の強みであるリージョナルソリューションを融合し、WHAグループの企業理念「Mission to the Sun」を大きく前進させることにつながります。イノベーション技術により顧客のサステイナブルなソリューションとなる新製品やサービスを開発することを目指します」とコメント。さらに、「製造およびサービス業における人材派遣業界最大手のSO社は労働市場のニーズに対応した人材採用と人材スキルトレーニング能力開発を含む人材マネジメントに精通しています。SO社は顧客のビジネスプロセスの改善、効率化、ひいては運営コスト削減を支援する様々なソリューションの開発に最先端テクノロジーを導入することで、リージョナルを実現しています。その一方で、ドライバーや車両管理システム（輸送管理）はWHAグループのグリーンロジスティクス事業の拡大計画の一部でもあります。SO社の投資は、戦略的かつサステイナブルな協力関係を構築するだけでなく、両社の事業拡大に多くの機会をもたらす、投資に対する十分な見返りも期待できます」と述べています。

Total Sustainable Solutions

WHAグループは、持続可能なソリューションを提供するために、環境、社会、経済の3つの側面からアプローチしています。WHAグループは、持続可能なソリューションを提供するために、環境、社会、経済の3つの側面からアプローチしています。

EVの活用

産業資本主義が招く環境負荷や気候変動は多くの地域に影響を及ぼしています。この問題に取り組むため環境問題への認識を広げ、サステイナブル事業を展開していくことの重要性が問われています。

産業活動の中でもロジスティクスは気候変動の主な要因である温室効果ガスの排出が特に多いとされています。世界資源研究所(WRI)のプラットフォーム「クライメート・ウォッチ」によると国際物流及びロジスティクス産業が排出する温室効果ガスは全体の約16%を占め、3番目に排出量の多い産業分野であり、なかでも道路輸送が最も大きな割合を占めています。

これらの問題に対処するためロジスティクス産業では現在、国際社会の環境規制・基準の見直しを含むサステイナビリティとネットゼロの目標に向けたイノベーションを推進しています。その中で注目されているのが電気自動車(EV)の導入と輸送やロジスティクス活動から発生する二酸化

化炭素などの温室効果ガスを大幅に削減するソリューションとなることが期待されます。

輸送・ロジスティクス産業のEV導入は環境保護に重点を置いて企業活動を調整する投資家らによって支えられています。EV導入は企業にとって燃料やメンテナンスなどの事業コストの削減につながる。国内環境炭素税など環境対策がより厳しき国々からの貿易障壁を取り除くのに役立ちます。一方、非適応企業のコストは増加する可能性があります。

現在、ロジスティクス産業もしくは自社でロジスティクスを担う企業ではEV導入戦略を検討されています。例えば、世界最大規模の総合航空貨物輸送会社フェデックスは2040年までにすべての配送車両をEV化し充電ステーションに投資し、電力会社とパートナーシップを結び、よりサステイナブルな電力網を整備することを目指しています。また、

総合ロジスティクス・サービス企業は環境保護に重点を置いて企業活動を調整する投資家らによって支えられています。EV導入は企業にとって燃料やメンテナンスなどの事業コストの削減につながる。国内環境炭素税など環境対策がより厳しき国々からの貿易障壁を取り除くのに役立ちます。一方、非適応企業のコストは増加する可能性があります。

現在、ロジスティクス産業もしくは自社でロジスティクスを担う企業ではEV導入戦略を検討されています。例えば、世界最大規模の総合航空貨物輸送会社フェデックスは2040年までにすべての配送車両をEV化し充電ステーションに投資し、電力会社とパートナーシップを結び、よりサステイナブルな電力網を整備することを目指しています。また、



WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリヤポン・ジャルコンサクン氏

タイランド コーポレート エクセレンス アワード2022 WHAグループが 「コーポレート・マネジメント・エクセレンス部門」で特別賞

WHA コーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOの ジャリヤポン・ジャルコンサクン氏はこのほど「タイ コーポレート・エクセレンス アワード2022」でコーポレート マネジメント エクセレンス部門特別賞を受賞しました。タイ経営者協会(TMA)がチュロンコン大学サン経営大学院と共催するこの名誉ある賞は、企業経営の実践と受賞企業の業績を考慮し、全国の経営者の意見と適格な審査に基づいて授与されます。

「このような名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っています。優れた経営は企業の業務に欠かせないものとなっています。WHA幹部とスタッフの皆さんの積極的な姿勢と絶え間ない努力に感謝します」とジャリヤポン氏は述べています。



タイ コーポレート エクセレンス アワード2022において、プラユット・チャノチャ首相(写真左)よりコーポレート マネジメント エクセレンス部門特別賞を受けるWHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリヤポン・ジャルコンサクン氏(右)



WHA ユーティリティ&パワー社(WHAUP)は、固定価格買取制度(FiT)を利用した再生可能エネルギー発電所の開発権を落札しました。

WHA ユーティリティ&パワー社(WHAUP)CEO のSomkiat Masunthasuwun氏は同社がエネルギー規制委員会(ERC)より固定価格買取制度(FiT Feed-in Tariff)を利用した太陽光発電プロジェクトの開発権(フェーズ1)を獲得したことを明らかにしました。これには、WHAUP社が100%所有する総発電容量59.8MWのプロジェクト3件と、ジョイント・ベンチャー・プロジェクト2件、総発電容量65.6MWを含む合計5基、総出力125.4MWの太陽光発電が対象となります。

ERCより受注した5つのプロジェクトのうち、4基は通常のソーラーファームで、もう1基はバッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)を備えたソーラーファームとなります。所在地はウボンラチャタニ県、プララム県、ラチャブリ県、カンチャナブリ県などで、2029年から2030年の間に商業運転(COD)を開始する予定です。

WHAUP社 再生可能エネルギー発電所5基の 開発権を落札

再生可能エネルギー発電所への新たな投資はタイおよび国外においてさまざまな形態で電力・ユーティリティ事業を拡大するという当社の方針に合致するものです。顧客、地域社会、社会を含むすべてのターゲット・グループのニーズに応える製品とサービスを開発する革新的ソリューションを活用。そして最終的にWHAUP事業の成長を堅固に加速します。この計画は、環境責任、社会的影響、グッドガバナンスを重視し、サステイナブルで着実な事業運営を目指す当社の目標に沿ったものです。

再生可能エネルギー発電所への新たな投資はタイおよび国外においてさまざまな形態で電力・ユーティリティ事業を拡大するという当社の方針に合致するものです。顧客、地域社会、社会を含むすべてのターゲット・グループのニーズに応える製品とサービスを開発する革新的ソリューションを活用。そして最終的にWHAUP事業の成長を堅固に加速します。この計画は、環境責任、社会的影響、グッドガバナンスを重視し、サステイナブルで着実な事業運営を目指す当社の目標に沿ったものです。

WHAUP社 大型浄水プロジェクト2件を成約

WHA ユーティリティ&パワー社(WHAUP)は、このほど、再生水を生産する2つの大型プロジェクトと契約しました。中国大手ソーラーパネルメーカーと年間生産能力2.92万立方メートル、契約金額18億バーツの15年契約。そして医療用ゴム手袋製造工場と年間生産能力1.67万9000立方メートル、契約金額11億バーツの契約となります。この2つの契約はWHAUP社が工業用水と電力の大手ユーティリティ・プロバイダーとしての地位強化につながります。

WHAUP社CEOのSomkiat Masunthasuwun氏はWHAUP社が工業団地と工場を持つ中国大手ソーラーパネルメーカーからの発注を受け、再生水サービスを提供する契約を結んだことを明らかにしました。現在建設中で、2023年6月下旬に完成し商業運転(COD)を開始する予定です。

また同工業団地に工場を持つ医療用ゴム手袋製造会社とも11億バーツの契約を結びました。廃水処理施設を利用した再生水プロジェクトは2026年までにCODを開始する予定です。この2つのプロジェクトは、通常のユーティリティサービス

また、天然資源である原水量を減らし、工業団地からの排水を大幅に削減するなど、長期的にサステイナブルなビジネス成長を実現し、干ばつや環境問題に解決していきます。これはThe Ultimate Sustainable Growthソリューションを目標とする同社の強い意思を表れていきます。Somkiat氏は述べています。

こうした近年の成功例はタイの東部経済回廊(EEC)の工業団地内大手事業者にも認められ、水管理におけるWHAUPの専門知識を再確認するものです。工業団地における水と電力のユーティリティ・サービス提供におけるWHAUPのリーダーシップが評価されることで、長期的かつサステイナブルな成長が期待されています。



また、天然資源である原水量を減らし、工業団地からの排水を大幅に削減するなど、長期的にサステイナブルなビジネス成長を実現し、干ばつや環境問題に解決していきます。これはThe Ultimate Sustainable Growthソリューションを目標とする同社の強い意思を表れていきます。Somkiat氏は述べています。

こうした近年の成功例はタイの東部経済回廊(EEC)の工業団地内大手事業者にも認められ、水管理におけるWHAUPの専門知識を再確認するものです。工業団地における水と電力のユーティリティ・サービス提供におけるWHAUPのリーダーシップが評価されることで、長期的かつサステイナブルな成長が期待されています。

WHAKW Alliance Tokyo Tatemono Asia バンコク都心部のオフィスビル開発事業へ参画を発表

WHAKW Alliance社(WHAKW)とTokyo Tatemono Asia社(TTA)はタイで投資開発する戦略的合弁会社を設立しました。初期プロジェクトはスクムビット通り10億バーツ相当のプロジェクトに投資。将来的には、このビジネスエリア全域を対象としていきます。WHAKWは新合弁会社の株式の51%、TTAは49%を保有します。

この合弁会社の最初のプロジェクトはスクムビット通り25の角に位置する低層グレードAオフィスビルで、バンコクで乗降客数が特に多いBTSアソーク駅と MRT スクムビット駅からすぐの立地です。建物には9000平方メートルを超える最高品質のオフィススペースと店舗スペースがあり、カーテンウォールと2階建ての地下駐車場を備えます。設計施工はタイ竹中が担当(2023年7月の竣工稼働を予定しています)。

WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのWHAKW Alliance社CEOの社会を兼務するジャリヤポン・ジャルコンサクン氏、KWCキャピタル会長兼WHAKW Alliance社CEOのKanawat Wasinsungworn氏、東京建物代表取締役社長の野村均氏による合弁事業調印式はバンコクで行われました。

ジャリヤポン・ジャルコンサクン氏はWHAKWは、素晴らしいパートナーと共に取り組む機会を立ち上げることを嬉しく思います。バンコクのビジネスエリアに建つこのビルは、考え抜かれた斬新なデザインと、究極のサービスを提供します。私たちはTTAと共に卓越したプロジェクトを進めていくことを楽しみにしています」とコメント。

Kanawat Wasinsungworn氏も、「TTAとのパートナーシップは無数の相乗効果を生み出し、日進月歩の市場において両社の知識・経験・専門性を融合させ、顧客の幅広い要望に応えることができ、TTAと緊密な協同関係を長期に渡り抱負していくことを願っています」と抱負を語っています。

一方、東京建物代表取締役社長の野村均氏は、「このプロジェクトは、当社にとってタイ初のオフィスビル開発プロジェクトとなります。WHAKWグループとKWCキャピタルという現地で評判の高いパートナーを得たことは当社にとって大変光栄なことです。この最初のプロジェクトを皮切りに日本でのオフィスビル開発運営の経験を活かしながら、プロジェクトに貢献し、WHAKWとの長期的なパートナーシップを築いていきたいと考えています」と述べました。



合弁会社設立の調印式。WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEO、WHAKW Alliance社長のジャリヤポン・ジャルコンサクン氏(写真中央右)、WHAコーポレーション社CEO兼KWCキャピタル会長のKanawat Wasinsungworn氏(左)、東京建物社長兼執行役員野村均氏(中央右)、同執行役員・海外事業本部長の田島史雄氏(右)。



WHAグループCEO タイベトナム サプライチェーン・コネクティビティで特別講義

タイベトナム間の戦略的パートナーシップ確立10周年を記念してタイ大使館はベトナム外交アカデミー(DAV)内のタイルームにて著名タイ人ビジネスリーダーによる特別講演会を開催。

ベトナムにおけるタイ人ビジネスコミュニティの活動を共有しました。初回の特別講義は2023年5月、WHAコーポレーション社代表取締役会長兼グループCEOのジャリポン・ジャル

コーンサクン氏がサプライチェーン・コネクティビティについて話しました。同イベントは、駐ベトナムタイ大使 Nirkorndej Jaisankura氏とD&A代表の Phum Lan Dung 博士の挨拶で始まり、ジャリポン氏による特別講演ではサプライチェーンの変革を促す世界的・地域的な傾向が紹介されました。講演ではマクロ的・地政学的要因を含む大規模な地域間コネクティビティの取り組み、グリーン物流・輸送、デジタル化、インドストア4.0のほか、タイとベトナムのコネクティビティ、WHAグループの事業、ベトナムでのプレゼンス拡大目標などにも言及しました。

WHAグループは物流、工業団地開発、電力＆ユーティリティ、デジタル・ソリューションの完全統合型デベロッパーでありタイ東部経済回廊(EEC)の主要プレイヤーでもあります。タイでの30年以上にわたる実績とWHAスマート・エコ工業団地のコンセプトのもと、2017年にベトナム・ゲアン省に進出。最高水準のインフラ、ユーティリティ、環境配慮を備えた世界水準の工業団地となるWHAインダストリアルゾーン1・ゲアンを開発しました。現在WHAインダストリアルゾーン1・ゲアンはフェーズ1(145ヘクタール)が完成。工業用地の77%が中国、日本、韓国、台湾、タイ、ベトナムの企業にリースされ、食品加工、自動車部品、太陽光エネルギー、建築資材、電子機器など、さまざまな分野で利用されています。さらにWHAグループは2022年3月にフェーズ2(355ヘクタール)の建設を開始しました。WHAグループでは工業用地に対する顧客の継続的な需要に応えるため建設を加速しています。フェーズ1とフェーズ2、その後の拡張工事を合わせることでWHAインダストリアルゾーン1・ゲアンの総面積は2,100ヘクタールに達する予定です。WHAグループはベトナムで

さらに2つの工業団地開発をするための覚書(MOU)を地元当局と交わっています。1つ目は、WHAスマートテクノロジー工業団地(タインホア)でタインホア省に500ヘクタールの敷地を有しており、さらに拡張する可能性があります。もうひとつはダナン省とクア

ンガイ省の中間に位置する面積400ヘクタールのWHAスマート・エコインダストリアルゾーン1(クアンナム)で、2026年または27年に認可が下り、その後すぐに建設が開始される予定です。WHAグループはユーティリティ事業、電力事業、物流施設、レイアウト型ビルド、ビルドトスラスト型設備など他のWHAグループ事業も含め、ベトナムのサステイナブルな経済成長を促進し、事業拡大を目指しています。

ンガイ省の中間に位置する面積400ヘクタールのWHAスマート・エコインダストリアルゾーン1(クアンナム)で、2026年または27年に認可が下り、その後すぐに建設が開始される予定です。WHAグループはユーティリティ事業、電力事業、物流施設、レイアウト型ビルド、ビルドトスラスト型設備など他のWHAグループ事業も含め、ベトナムのサステイナブルな経済成長を促進し、事業拡大を目指しています。



WHAインダストリアルゾーン1・ゲアン市・各省庁代表団ら WHAインダストリアルゾーン1・ゲアン投資環境を調査

「献血の日」に多くのWHAインダストリアルゾーン1・ゲアン社従業員が集まり、献血を行いました。このプロジェクトは2023年労働者月間の活動の一部です。労働組合が当活動の支援を決めるとすぐに多くのWHAスタッフ

が積極的に献血を行いました。献血センターには朝7時から多くのWHA従業員が駆け付け、採血の順番を待ちました。WHAインダストリアルゾーン1・ゲアン社ではこの献血活動を今後毎年実施していく方針です。

嘉蔭股份有限公司 WHAインダストリアルゾーン1・ゲアンに新工場建設

MP3プレーヤー・オーディオ機器・USB生産の嘉蔭股份有限公司(Jia Yin Co. Ltd. 旧社名:Shenzhen Jiayin Company)はこのほど、新工場建設のためWHAインダストリアルゾーン1・ゲアンの土地賃貸借契約に調印しました。

ゲアン省ドンナム経済特区に位置するこの工場により、Jia Yin社は地域で増え続ける顧客ポートフォリオにマッチした高品質な製品を提供することができるようになります。



調印式に出席したWHAインダストリアル・デベロップメント社副社長のAnchalee Prasertchand氏(写真中央左)、WHAインダストリアルゾーン1・ゲアン社社長の Nguyen Thi Bich Lien氏(左端)とJia Yin社社長のLiu Le Bing氏(中央右)

KOYU TEXTILE VIETNAM 社 WHAインダストリアルゾーン1・ゲアンで新工場起工式



起工式でのWHAインダストリアルゾーン1・ゲアン社社長の Nguyen Thi Bich Lien氏(写真左から4人目)とKYVN社社長の藤田正嗣氏(左から6人目)。また、ドンナム経済特区(DNEZ)管理委員会副主任のLe Van Hai氏(左から5人目)ら多くの関係者が立ち会いました。

高友繊維のベトナム法人Koyu Textile Vietnam(KYVN)はこのほど、WHAインダストリアルゾーン1・ゲアンで新工場起工式を行いました。日本の厳しい品質基準を満たす環境に配慮した生産システムを備えた新工場が各国からの需要増に対応します。

ホーチミン市をはじめとする各省の代表団がWHA工業団地インダストリアルゾーン1・ゲアンを訪問し投資環境に関する調査を実施しました。代表団からはWHAグループの概要から、運営管理、「スマート」！ エココンセプト、ユーティリティサービスなどを含めたベトナムでの工業団地開発についての説明を受けました。来場者はWHAのプロジェクト開発、WHA工業団地のサステイナブルなマネジメント、環境保護に関心を示し、総面積498ヘクタールを超えるWHAインダストリアルゾーン1・ゲアンの見学も行ないま



WHA GROUP ニュースダイジェスト

WHA Group

タマサート大学 公衆衛生学部関係者ら WHAグループを表敬訪問

タマサート大学公衆衛生学部エグゼクティブ・ミニMBAプログラム関係者らはこのほどWHAグループを訪れ同社の製造業分野におけるサステナブルなイノベーションと経営アプローチを視察しました。エグゼクティブ・ミニMBAプログラムは、健康、安全、環境、エネルギーに特化した問題を管理する将来のビジネスリーダーを育成するプログラムです。



WHAグループ本社のWHAタワーでタマサート大学公衆衛生学部長准教授のSasitorn Taptagaporn氏(右から6人目)と学部長顧問のSomjinn Piluek博士(中央左)を出迎えるWHAコーポレーション社最高執行責任者のPajongwit Pongsivapai氏(中央右)。

WHAグループ マヒドン大学 工業団地入居企業対象の学術研修 プログラムを開催

WHAコーポレーション社(WHAグループ)はこのほど、マヒドン大学公衆衛生学部と共同で製造業で使用される化学物質の一部が及ぼす健康リスクについての学術研修プログラムを実施しました。このWellness for Industryコースは労働衛生を改善し、製造業界の安全性向上を図り、参加者が健康リスクについての認識と正しい評価を実践することで早期に対策を講じることができるようになることを目的としています。イベント期間中、従業員の健康と福祉を向上させ安全な職場環境を作るためのデジタルヘルスケアアプリケーション「WHAbit」が紹介されました。



タイ工業団地公社I-EA-Tオペレーションセンター所長のNuchanart Kransungnoen氏(中央左)、マヒドン大学公衆衛生学部労働安全衛生学科学准教授のWantanee Phanprasit氏(中央右)は、WHA デジタル社 デジタル・サービス&ソリューション代表のVajchanai Limsangpetch氏(左端)、WHA イングストリアル・デベロップメント社安全健康・マナー・サービスのChaiyavut Kongmongkol氏(右)とともにもイースタン・シーボード工業団地1(ラヨーン)で開催されたWellness for Industryプログラム参加者を歓迎しました。

WHAID

WHAイースタン・シーボード工業団地ラヨーン4 BWF(タイ)が最新製造拠点建設へ

ドイツBWFグループ子会社のBWF(タイランド)社はこのほど、WHAイースタン・シーボード工業団地ラヨーン4(WHA ESIE 4)に新たな製造施設を建設するため土地売買契約に調印しました。フィルタメディアメーカー最大のBWF社はカスタマイズされた高品質ソリューションを提供するドイツ企業で、ドイツ・バイエルン州を拠点とし、世界16カ国以上で事業を展開。先駆的な技術と起業家精神により顧客基盤を拡大し、世界市場でリーダーシップを発揮しています。



土地売買契約式典に出席した、WHA イングストリアル・デベロップメント社代表取締役副会長のDavid Nardone氏(左から5人目)、WHA イングストリアル・デベロップメント社執行役員兼メンバー/産業-国際部門代表のVivat Jiratkransakul氏(左から4人目)、WHAコーポレティティ&パワー社CEOのSomkiat Masunthasuwun氏(左から3人目)、WHA コーポレーション社CFOのNatthapatt Tamboon-ek氏(右)、WHA イングストリアル・デベロップメント社工業用地-建物顧客開発担当副社長のLadda Rojanavilavudh氏(左から2人目)、BWFグループ マネージング・パートナーのPhilipp von Waldenfels博士(右から5人目)とMaximilian Offermann氏(右から4人目)、BWFグループ 首席代表のStefan Offermann氏(右から3人目)、BWFグループ・グローバル・エンジニアリング社長のGeorg Fock氏(右)。

WHAラヨーン36工業団地 月星(タイ)が新工場建設のため 土地売買契約を締結

自動車およびオートバイ用特殊精密部品製造・販売の月星製作所(タイランド)はこのほどWHAラヨーン36工業団地内の15ライの用地購入を完了し、最新鋭生産施設の建設を開始します。新工場はタイの自動車産業クラスターを後押しし、製品は海外に輸出されます。この生産拠点は、タイ国内および周辺地域の顧客ニーズに応えるため、同社の生産能力向上を可能とする最高品質基準に沿って建設されます。



WHAタワーで行われた土地売買契約調印式に出席したWHA イングストリアル・デベロップメント社工業用地-建物顧客開発担当副社長の Ladda Rojanavilavudh氏(写真中央左)と、クラレGCアドバンス・マテリアルズ(タイ)社長の山本博志氏(中央)、WHA工業用地顧客開発担当部長の湯淺謙一氏(右)。

化学製品生産のクラレ WHAイースタン工業団地 (マブタブット)に新工場開設

クラレGCアドバンス・マテリアルズ(タイ)とクラレアドバンス・トケミカルズ(タイ)は、クラレ、PTTグローバルケミカル、住友商事の大手3社と共同で、ラヨーン県WHA イースタン工業団地(マブタブット) (WHA EIE)において新工場の開所式を開催しました。同工場は2023年2月に操業を開始し、耐熱性ポリアミド樹脂PA9T(ジェネスタ®)、水素添加スチレン系エラストマーHSBC(セプトン®)、イソブチレン誘導品MPD(3-メチル-1,5-ペンタンジオール、MPD)などの化学製品を生産。年間生産能力それぞれ、13,000トン、16,000トン、5,000トンとなります。クラレの製品は、自動車、電子機器、家電製品、靴、玩具などに幅広く応用されています。



WHA EIEで開催された新工場開所式。WHA イングストリアル・デベロップメント社工業用地-建物顧客開発担当副社長の Ladda Rojanavilavudh氏(写真中央左)と、クラレGCアドバンス・マテリアルズ(タイ)社長の山本博志氏(中央)、クラレトケミカルズ(タイ)社長の山本博志氏(中央右)。

CSR

WHAグループ、 環境保護を推進する 「WeCYCLE DAY」を開催

WHAグループはこのほどイースタン・シーボード工業団地(ラヨーン)で「WeCYCLE Day」を開催。ここでWeCYCLEプロジェクトに賛加する団体に感謝の意を表しました。WeCYCLEプロジェクトは人々に安全で清潔な、より良い環境を提供することを目的とするものです。使用済みペットボトルとWHAグループの廃水浄化池から回収したホテアアオイを使ったアップサイクル・スクールバックをWHA工業団地周辺の学校の生徒に配布しました。WeCYCLE DayはPTTグローバルケミカル社、およびアップサイクルの専門技術を持つプラスチック廃棄物管理プラットフォームとの共同イベントとして開催されました。イベントではWHA コーポレーション社のPajongwit Pongsivapai COO(写真右から2人目)とWHAコーポレティティ&パワー社(WHAUP)の Somkiat Masunthasuwun CEO(左端)が、プロジェクトの情報とサステナブルな成長のための事業開発ガイドラインを説明しました。また、PTTグローバルケミカル社の Toasaporn Boonyapipat COO(左から2人目)からは、サステナブルな成長に向けた組織の在り方について情報が提供されました。イベントにはTasit 自治体代表のPhinyo Sap-aran氏(右から3人目)と代表団、イースタン・シーボード工業団地(ラヨーン)のタイ工業団地公社(I-EAT)ディレクター、WHA イースタン・シーボード工業団地1-4のI-EAT ディレクター、WHA チョンプリ工業団地1-2のI-EAT ディレクターからも出席しました。



WHAグループ、ラヨーン のブルアックデー病院を支援

WHA イングストリアル・デベロップメント社(WHAID)とWHA コーポレティティ&パワー社(WHAUP)は、サノウナクン財団、東部経済回廊事務局(EEOC)、IK KRAFT社などと協力し、酸素システム設置のためラヨーン県のブルアックデー病院へ100万パーツを寄付しました。この寄付により患者ケアの質が向上し、コミュニティメンバーの医療体制が強化されます。



WHA、小学4~6年生対象に 1日英語キャンプを開催

工業団地開発及び電力・インフラサービスを提供するWHA コーポレーション社とWHA コーポレティティ&パワー社はこのほど、ラヨーン県のWad Chakpakood 学校の小学4~6年生を対象に1日英語キャンプを開催しました。WHA Wonder Landのテーマのもと、生徒の語学力を伸ばし、英語で自らを表現できるようにすることで、知識やスキルを得て、将来的によりよい雇用機会を得られるようになることを目的としています。



WHAグループ、アップサイクル枕を 地元病院へ贈呈

WHA コーポレーション社はこのほど、高齢患者や特別なケアを必要とする人のため、ペットボトルから再生されたマイクロファイバー製の枕「WHA Pan Sook」500個を地元の病院に贈りました。WHA Pan Sook枕はWHAグループの2022年WeCYCLEプロジェクトの一環でWHAの顧客や従業員から回収した使用済みペットボトルを利用して製作しています。またペットボトルの一部はウイルス・細菌・真菌を死滅させる革新的なQVIRAファブリックとしてアップサイクルされ、抗菌枕カバーとして使用されます。WHAグループでは、地域社会の発展のため教育・健康・スポーツ・安全・環境保護など地域社会のさまざまな福祉活動実践かつ支援しています。



Asmech Technology 新工場グランドオープニング セレモニーを開催

シンガポールを拠点とするファクトリーオートメーションソリューションおよびサービスプロバイダーの子会社であるAsmech Technology(タイ)社はこのほど、WHAチョンプリ工業団地1(WHA CIE 1)にて新しい生産・組立工場のグランドオープニングセレモニーを開催しました。東部経済回廊(EEOC)に位置するこの近代化的施設は、最新技術を備え、革新的で高水準の製品生産とサービスを提供し、同地域の顧客の需要に応えます。



WHA CIE 1で開催されたAsmech Technology新工場のグランドオープニングセレモニー。WHA イングストリアル・デベロップメント社工業用地顧客開発担当部長のSuvanee Suwannajit氏(写真中央右)より記念品を受け取るAsmech Technology(タイ)社長のSam Chong Voon Chiat氏(中央左)。

クアーズテック・アドバンス・マテリアルズ(タイ) WHA イースタン・シーボード4での事業拡大へ

米国の工業用テクニカル・セラミックス製造メーカー、クアーズテック社の子会社クアーズテック・アドバンス・マテリアルズ(タイ)社はこのほど、WHA イングストリアル・デベロップメント社(WHAID)と土地売買契約を締結し、同地域での事業を強化することになりました。ラヨーン県のWHAイースタン・シーボード工業団地4(WHA ESIE 4)に入居する最新鋭工場は、同社の生産能力増強と顧客基盤の拡大に貢献します。



WHA ESIE 4で行われた調印式。WHA イングストリアル・デベロップメント社工業用地顧客開発のRungruethai Kittipinyochai氏(写真左)と、クアーズテック・アドバンス・マテリアルズ(タイ)社社長のParin Mekabut氏(右)。